

# 松山市中心地区

(愛媛県松山市)

- 計画期間 平成16年度～平成20年度
- 面積 450ha
- 交付対象事業費 7,032百万円
- 市人口 514,137人(地区内人口52,585人)

**ポイント** 小説『坂の上の雲』を軸とした21世紀のまちづくり

**地区概要** 交流拠点の整備とネットワークで結ぶ回遊型観光の構築及び、観光文化等交流施設の利用促進を図り、物語のある回遊型の都市観光を推進し、地域再生を図る。

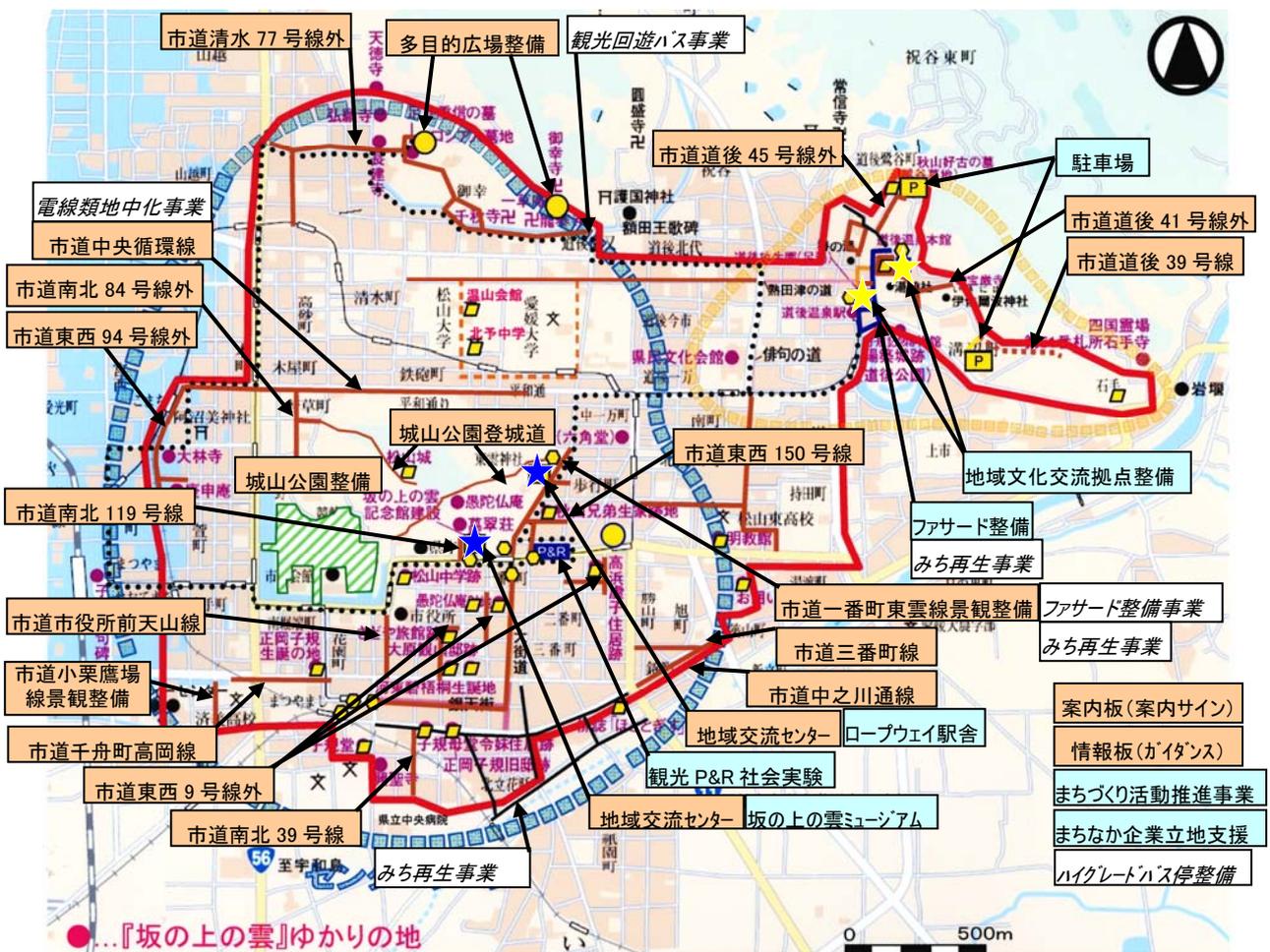
**目標** 『坂の上の雲』フィールドミュージアムの具現化により、都市観光の振興を図り、「市民生活の質の向上」と「地域経済・社会の活性化」を目指す。

**指標** 有形・無形の地域資源をネットワークで結ぶ、物語のある回遊型の都市観光の推進を図り、観光入込み客数の増加を指標として、地域経済・社会の活性化を高める。

観光入込み客数	500万人 (H14)	→	600万人 (H20)
公共交通機関利用数	2,590万人 (H14)	→	2,622万人 (H20)
交流施設の利用者数	180万人 (H14)	→	216万人 (H20)
誘致企業の新規雇用者数	0人 (H14)	→	2,000人 (H20)

**事業内容** 基幹事業(5,097百万円)→ 道路(3路線498m)、公園(9.4ha)、地域生活基盤施設(案内板・案内サイン、情報版・ガイダンスシステム、広場、駐車場)、高質空間形成施設(市道中央循環線外 緑化施設等)、高次都市施設(地域交流センター2,245㎡)

提案事業(1,935百万円)→ 観光P&R社会実験(約1,000㎡)、ファサード景観整備、歩行者優先空間整備(75m)、地域文化交流拠点整備(広場面積約430㎡、施設面積約140㎡)、『坂の上の雲』記念館(1,095㎡)、ロープウェイ駅舎(330㎡)、まちなか企業立地支援、まちづくり活動推進事業



●『坂の上の雲』ゆかりの地

## 地区の現況と課題

本市の観光拠点である、日本最古の温泉で国重要文化財に指定されている道後温泉及び築城 400 年の歴史を持つ松山城等の来訪者数は、道後温泉宿泊客数、松山城天守閣観覧車数、松山城へ繋ぐロープウェー・リフト利用者共に減少している。

道後温泉・松山城の観光資源は、誘客に大きな役割を果たしているものの、地場の産業資源や多くの歴史・文化資源は、地域の活性化、更には中心市街地の活性化に活かされていない。

## 提案事業の特徴

### 観光 P&R 社会実験

自動車から路面電車や市内循環バスなどの公共交通に転換を図り回遊型観光を進めるため市内中心部周辺の民有地や市有地を有効活用したフリッジ型の駐車場を確保し、公共交通で中心部に誘導する観光パーク・アンド・ライドの導入を図る実験を実施する。

### 坂の上の雲ミュージアム

小説『坂の上の雲』の展示を通じた作品理解から市の推進する「『坂の上の雲』を軸とする 21 世紀のまちづくり」の展開へ導き、市民のまちづくり活動に発展することを目的とした施設。施設内に設ける「まちづくり交流施設」は基幹事業の高次都市施設：地域交流センターで計上し、それ以外の「文学館展示施設」を提案事業で実施。

## まちづくりの効果、持続的取り組み

### まちづくりの効果

・観光入込み客数	500 万人	→	525 万人
・公共交通機関利用数	2,590 万人	→	2,707 万人
・誘致企業の新規雇用者数	0 人	→	1,357 人

### 市民参加の仕組み作り

NPO や市民団体が自ら企画し、地元住民と連携を図りながら取組む地域資源を活かしたまちづくり活動の活動支援を公募により行い、3 か年を目途に自主・自立した運営を目指している。支援が完了した団体は、新しいステージで活動を開始し色々な成果を出してきている。

### 特定非営利法人まちづくり支援えひめ代表理事 (フィールドミュージアムサポート委員会指導員)

#### 前田 眞氏のコメント

フィールドミュージアムの実現に向け、市民の参加を得るため、地域資源の発掘・再評価・活用等に、主体的に取り組む諸団体を支援・育成してきました。

史跡などを核とした活動のみならず、俳句等の文化資源も活用されており、また、当初は不安定だった団体が継続的に活動できる団体へ変貌した例も多く、市民の潜在的なまちづくりへの熱意を改めて認識させられました。

今後とも、地域に愛着を持って取組む団体の掘り起こしや活動の継続・連携に向けてのサポートを継続的に行うため、行政との連携のもと、取り組んでいきたいと思っております。

## 道後温泉誇れるまちづくり推進協議会

### 環境・再開発委員長 奥村 保樹氏のコメント

道後温泉誇れるまちづくり推進協議会は、地域住民、旅館業者、商店街等で構成する組織ですが、ファサード整備事業に際しては、「景観まちづくり宣言『道後百年の景』」に基づいたガイドラインを策定するとともに、協議会独自の支援金制度を創設、合意形成に向けた対話を重ねるなど、市と一体となって取り組みました。

その結果、歴史漂う温泉情緒を醸成させるとともに、観光客等にも心地よく、魅力的な街並みに生まれ変わり、協議会としても、これまでの「おいしい」を「かたち」にでき、大きな自信を得ることができました。



▲まち全体が屋根のない博物館



▲まちづくりの中核「坂の上の雲ミュージアム」



▲松山城への玄関・ロープウェー通りの整備



▲ゆったり記念撮影も可能となった道後温泉

▼フィールドミュージアムサポート委員会での支援状況



一遍上人人生誕地（宝厳寺）での地域活動▲